

【基準Ⅱ 教育課程と学生支援】

■ 基準Ⅱの自己点検・評価の概要

※ ここには、基準において、改善が必要な事項について、その現状、課題、改善計画及び行動計画の概要を記述してください。

建学の精神および教育理念に基づいて、教育課程の中の学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針が、学則に規定されている。ただし、その時代に合ったものに適宜改善をしていく必要があると考えている。

改善計画としては、現在保育者に求められているものを学科で常に議論し、教育内容の力点を変化させ、科目間の連携をはかりながら教育内容の改善を行うことと、実習、就職にむけて、より教育効果の高まるような科目の配列や教育内容の調整を行う。

実習指導においては、実習指導者による現場からの評価及び学習成果については、実習評価票によって査定している。免許・資格取得に向けて、実習日誌や実習巡回指導などを引き続きよりよいものにしていく。

学生支援の分野での教育資源の有効活用においては、学習成果の評価に教員間でばらつきがないように、FD 研修会の際などに教員間で調整、意見交換していく。また、講義要項に記載してある学習成果についても毎年、点検・改善を検討していきたい。

また、基礎学力が不足する学生が数多く入学してきているため、学生生活支援の一環として、1年生全員に基礎学力養成講座を受講させている。この講座の受講前と受講後に確認テストを実施し、どれくらいの効果が出ているかのデータを蓄積しているところである。

なお、3つのポリシー（ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシー）については、学校教育法施行規則の一部改定に従い、点検・改善をして、新しいものに改定した。（指定以外の備付資料 46.平成29年度『学生便覧』、48.2018『大学案内』）

【テーマ 基準Ⅱ-A 教育課程】**【区分 基準Ⅱ-A-1 学位授与の方針を明確に示している。】**

■ 基準Ⅱ-A-1の自己点検・評価

※ 以下の観点を参照して、自己点検・評価を行い、(a)及び(b)を記述してください。

(a) 現状

※ ここには[観点]についての点検内容を、観点ごとに記述せずまとめて記述してください。
(以下同じ。)

※ 自己点検・評価の実施年度前に策定した「改善計画」及び「行動計画」の実行状況を含めて記述してください。(以下同じ。)

学位授与の方針は、建学の精神と教育理念に基づいて学則第1条の2に示されている「未来を担う子どもたちを育てる豊かな人間性と高い教養を持ち、専門知識と技術、実践力を身につけた幼児教育・保育の専門家を養成する」という本学科の目的が、学位授与の方針である。学則は、その最低の要件として短期大学卒業の要件、成績評価の基準、資格取得の要件も示している。

また、学位授与の方針に沿って、期待される学習成果を『講義要項』（シラバス）に掲載していることから、それぞれの学習成果は、学位授与の方針の内容と対応する。

この学則上の学位授与の方針は、学生便覧においてディプロマ・ポリシーとして、さらに具体的に示されている。

本学のディプロマ・ポリシーは、建学の精神である「誠を興し、誠に行動し、誠を普くする」に基づき、保育者としての理論と技術や実践力を身につけ、保育職への責任と誠実さを持ち、協力して仕事ができる社会性、何事にも挑戦する向上心や人間としての豊かさを持っている人材を輩出する、である。

「学則」に規定している卒業の要件、成績評価の基準、資格取得の要件については、以下の通りである。

（卒業の要件）

第 30 条 本学を卒業するためには、学生は 2 年以上在学し、別表に定めるところにより、70 単位以上を修得しなければならない。

（卒業）

第 31 条 本学に 2 年以上在学し、本学則に定める授業科目及び単位数を修得した者については、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定する。

2 学長は、卒業を認定した者に対して、卒業証書を授与する。

（学位）

第 32 条 前条の規定に基づき、本学を卒業した者に対しては、学長は下記の学位を授与するものとする。

幼児教育科 短期大学士（幼児教育）

（教育職員免許状の取得）

第 33 条 教育職員免許状を取得しようとする者は、教育職員免許法及び同法施行規則に定める授業科目及び単位を修得しなければならない。

2 本学において取得できる教育職員免許状は、次のとおりである。

幼児教育科 幼稚園教諭二種免許状

（保育士資格の取得）

第 34 条 保育士資格を取得しようとする者は、第 30 条の規定の科目のほかに児童福祉法（昭和 22 年法律第 164 号）及び児童福祉法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 11 号）に定める科目及び単位について所定の科目及び単位を修得しなければならない。

2 第 30 条及び前項に規定する科目及び単位を修得した者には、指定保育士養成施設卒業証明書を交付する。

「浜松学院大学短期大学部履修に関する規程」による成績評価の基準は、以下の通りである。

（成績評価）

第 12 条 成績評価は、優（80 点以上）・良（79～70 点）・可（69～60 点）・不可（59 点

以下)とし、可以上を合格とする。

上記、学則および履修に関する規程に定められたとおり、卒業もしくは必要な単位を修得することによって、学位「短期大学士(幼児教育)」及び幼稚園教諭二種免許状・保育士等を取得でき、社会的通用性を保証されているものである。

学則や各規程および、ディプロマ・ポリシーは、教務部会や学科会議、教授会等で必要に応じて、検討が行われている。

(b) 課題

※ ここには[観点]についての点検結果を踏まえ、課題について記述してください。(以下同じ。)

※ 課題には問題点だけでなく、今後更に向上・充実させるために必要な点も含めて記述してください。(以下同じ。)

学則における本科の教育目的・目標は、学科創設時の初心を表わすものであり、現在も変更すべきものではないが、それを具体的にしたディプロマシーは、入学する学生の変化に対応した検討を加えるとともに、建学の精神との一貫性を明示できるようにしていかなければならないと考えている。

※ [当該区分に係る自己点検・評価のための観点]

- (1) 学科・専攻課程の学位授与の方針は、それぞれの学習成果に対応している。
 - ① 学科・専攻課程の学位授与の方針は、卒業の要件、成績評価の基準、資格取得の要件を明確に示している。
- (2) 学科・専攻課程の学位授与の方針を学則等に規定している。
- (3) 学科・専攻課程の学位授与の方針を学内外に表明している。
- (4) 学科・専攻課程の学位授与の方針は、社会的(国際的)に通用性がある。
- (5) 学科・専攻課程の学位授与の方針を定期的に点検している。

[区分 基準Ⅱ-A-2 教育課程編成・実施の方針を明確に示している。]

■ 基準Ⅱ-A-2の自己点検・評価

※ 以下の観点を参照して、自己点検・評価を行い、(a)及び(b)を記述してください。

(a) 現状

学則 21 条において、教育課程編成方針は「学科に係る専門の学芸を教授し、職業又は実生活に必要な能力を育成するとともに、幅広く深い教養を培い豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮する」と明示され、先に示した学則第 1 条 2 に掲げる学位授与の方針に対応している。(提出資料 2.『講義要項』9 頁)

また、この趣旨に即し、学則 22 条では、「授業科目を基本教育科目及び専門教育科目に分け」、1 年次で基本教育科目を、2 年次で専門教育科目を主として履修させ、各授業科目は必修科目と選択科目に分けて編成するとし、学位授与の方針と対応している。

教育の質を下げないということは、受験生を送り出す高校と卒業生を受け取る現場から

引き続き高い評価を得ていくために、避けては通れないものである。このため、1年次から2年次への進級に当たっては、成績判定を厳密にし、必要なレベルに達していないものについては再履修させること、卒業時に必要なレベルに達していない科目があれば、免許・資格は取得させないこと、ピアノ（器楽演習）を免許・資格のいずれにも必修としたこと（下記科目表の専門科目器楽演習）、各科目で、定期試験の外に課題や小テストを行うようにすること等を実施した。

実習科目の評価については、実習先からの評価および巡回指導時の実習指導担当者からの意見、実習記録、事前事後指導の内容をもとに総合的評価を行っている。

実習継続が困難な場合は実習部会で対応を検討し、実習中止や再実習をおこなうケースもある。

シラバスの作成に当たっては、予習・復習のための学修時間を明示して、課題などをさせるようにしている。

音楽に関する科目については、少人数指導が効果的であるので、非常勤講師の協力を得ている。また、他の科目においても、一部非常勤講師に担当いただいております。本学科の教育方針や学生の様子等について、共通理解をはかることができるように、講師会を毎年開催している。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）は、学習成果に対応したものととして、次に示した授業編成によって実践されている。

基本教育科目

授業科目 の区分等	授 業 科 目	単位数		卒業要件 単位数	履修年次		形態
		必修	選択		1年	2年	
基本 教 育 科 目	哲学		2		前期		講
	歴史学		2		前期		講
	日本国憲法	2			前期		講
	自然科学概論		2		前期		講
	日本語表現		2		前期		講
	日本語演習		2		後期		演
	英会話Ⅰ		1	2 単 位 以 上 履 修	前期		演
	英会話Ⅱ		1		後期		演
	ポルトガル語Ⅰ		1		前期		演
	ポルトガル語Ⅱ		1		後期		演
	情報処理	2			前期		演
	健康・スポーツ科学（講義）	1			後期		講
	健康・スポーツ科学（実習）	1			前期		実

	野外教育活動		1		集中	集中	演
	総合科目 A		2				講
	総合科目 B		2				講
	合 計	6	19				

*卒業するためには、基本教育科目は、必修6単位、選択科目を6単位以上の12単位以上を修得しなければならない。

また、幼稚園教諭二種免許状取得のためには、(『英会話Ⅰ』・『英会話Ⅱ』、(『ポルトガル語Ⅰ』・『ポルトガル語Ⅱ』)の()のうちいずれかの組み合わせで、2科目2単位以上を履修しなければならない。

専門教育科目

授業科目の区分等	授 業 科 目	単位数		卒業要件単位数	幼 免	保 育 士	履修年次		形態
		必修	選択				1年	2年	
専 門 教 育 科 目	音楽	2		2 単 位 以 上 履 修	○	○	通年		演
	幼児音楽	1			○	●	後期		演
	図画工作	2			○	○	通年		演
	幼児造形	1			○	●		前期	演
	子どもと運動Ⅰ	1			○	○	後期		演
	子どもと運動Ⅱ	1			○	●		後期	演
	児童文学		2		ア	●		後期	演
	算数		2		ア			後期	演
	保育者論	2			○	○		後期	講
	教育原理	2			○	○	前期		講
	保育原理		2		●	○	後期		講
	発達心理学	2			○	○	前期		講
	保育の心理学		1		○	○	後期		演
	教育社会学	2			○	●		前期	講
保育・教育課程論	2		○	○	後期		講		

	保育内容総論		2		○	○		前期	演	
	健康（指導法）	1			○	○		前期	演	
	人間関係（指導法）	1			○	○		前期	演	
	環境（指導法）	1			○	○		後期	演	
	ことば（指導法）	1			○	○		後期	演	
	表現（指導法）	1			○	○		前期	演	
	幼児音楽表現		1		○	●		後期	演	
	教育方法の理論と実践	2			○			後期	演	
	保育相談支援	1			○	○		後期	演	
	保育・教職実践演習 （幼稚園）	2			○	○		後期	演	
	教育実習		5		○		後期	前期	実	
	ゼミナール	2						通年	演	
	児童文化		2			○	通年		演	
専 門 教 育 科 目	器楽演習		2		○	○	通年		演	
	幼児音楽教育法		1			●		前期	演	
	声乐演習		1			●		前期	演	
	幼児造形表現		1		●	●		後期	演	
	子どもの食と栄養		2			○		後期	演	
	児童家庭福祉		2			○	前期		講	
	子どもの保健Ⅰ		4			○	通年		講	
	社会福祉		2			○	前期		講	
	相談援助		1				○		後期	演
	社会的養護		2				○	後期		講
	社会的養護内容		1				○		前期	演
	子どもの保健Ⅱ		1				○		後期	演

幼児理解		2		○	●	前期		演
青年の心理		2			●		後期	講
乳児保育		2			○		前期	演
障がい児保育		2			○		通年	演
家庭支援論		2			○		後期	講
保育実習Ⅰ		4			○	集中	集中	実
保育実習指導Ⅰ		2			○	後期	前期	演
保育実習Ⅱ		2			イ		集中	実
保育実習指導Ⅱ		1			イ		前期	演
保育実習Ⅲ		2			ウ		集中	実
保育実習指導Ⅲ		1			ウ		後期	演
合 計	30	59						

*「形態」の「講」は講義、「演」は演習、「実」は実技・実習を指す。

*卒業するためには、専門教育科目は、必修30単位、選択科目を28単位以上の58単位以上を修得しなければならない。

※資格欄 「幼免」（幼稚園教諭二種免許状）○は必修、●は選択、アは選択必修で各1科目2単位以上履修しなければならない。

「保育士」（保育士資格）○は必修、●とイ・ウは選択必修である。●は、6単位以上履修しなければならない。

イとイまたはウとウの組み合わせで3単位履修しなければならない。

幼児教育科は幼稚園教諭二種免許状を取得することを目的とする。（提出資料 2.『講義要項』17～19頁「履修に関する規定」）

成績評価は、試験などの結果に基づいて決定され、厳格に適用されている。その結果は、優（80点以上）・良（79～70点）・可（69～60点）・不可（59点以下）とし、可以上を合格とし、学生及び保護者に通知されている。『講義要項』（シラバス）には、授業の目的（到達目標）および概要、授業計画、成績評価方法・基準、テキスト（参考書）、履修に当たっての留意点、必要な準備学習が明示され、短期大学部長、学科長および教務担当教職員により毎年チェックされている。（提出資料 2.『講義要項』24頁以下「シラバス」）

教育課程の教員配置は、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を達成することができるよう、教員の資格・業績を適切に反映したものとなっている。（提出資料 2.『講義要項』21頁～23頁）

また、教育課程は、学習成果や社会的要請（法令などの変更等を含む）への対応を基に、必要に応じて、見直し行なっている。

(b) 課題

学生の受講態度は、教員間で、各クラスの状況を出し合って常時指導してきたので、良くなってきたが、今後も私語やスマートフォン等の使用をしないように徹底していく。

また、体験授業への学科としての位置付けと支援、授業方法についての経験交流等に取り組むことである。

※ [当該区分に係る自己点検・評価のための観点]

(1) 学科・専攻課程の教育課程は、学位授与の方針に対応している。

(2) 学科・専攻課程の教育課程を体系的に編成している。

① 学習成果に対応した、授業科目を編成している。

② 成績評価は教育の質保証に向けて厳格に適用している。

③ シラバスに必要な項目（達成目標・到達目標、授業内容、準備学習の内容、授業時間数、成績評価の方法・基準、教科書・参考書等）が明示されている。

④ 通信による教育を行う学科・専攻課程の場合には印刷教材等による授業（添削等による指導を含む。）、放送授業（添削等による指導を含む。）、面接授業又はメディアを利用して行う授業の実施方法を適切に行っている。

(3) 学科・専攻課程の教育課程の教員配置は、教員の資格・業績を適切に反映している。

(4) 学科・専攻課程の教育課程の見直しを定期的に行っている。

[区分 基準Ⅱ-A-3 入学者受け入れの方針を明確に示している。]

■ 基準Ⅱ-A-3 の自己点検・評価

※ 以下の観点を参照して、自己点検・評価を行い、(a) 及び (b) を記述してください。

(a) 現状

専門知識や技術、実践力や使命感（専門性）は、入学後に獲得させることが出来るので、入学者受け入れに当たっては、自己の適性を理解しているか、目的に向かって努力できる向上心を持っているか（人間性）及び、高校での学習成果として知的な基礎学力とコミュニケーション力（社会性）を持っているかを判定することに努めている。

本学では、入学者受け入れの方針として、アドミッションポリシーを明確にしている。本学のアドミッションポリシーは、平成28年度当初は、「子どもが好きで、子どもの成長を我がことのように喜び、保育や福祉の実践的プロになることを切望している人」であったが、学科内で議論を重ねて、平成28年度中に「子どもが好きで、保育者になりたいという熱意を持ち、保育者になるために必要な力を身につける努力ができ、基礎的な学力を持っている生徒を求める」に改定した。（指定以外の備付資料 46.平成29年度『学生便覧』、49.2018『入試要項』、48.2018『大学案内』）

(b) 課題

入学選抜の方法は、学力点（学力試験及び内申書）だけでなく面接も重視しているが、入学後の状況を見ると、学力点が下位だと学習についていけない学生が出てくることが課題である。

保育者になりたいが、ピアノが未経験であるという学生が増加している。そのため、入学前レッスンを開催するなど、入学後の授業にスムーズに入っていけるようにしている。

※ [当該区分に係る自己点検・評価のための観点]

- (1) 各学科・専攻課程の学習成果に対応する入学者受け入れの方針を示している。
- (2) 入学者受け入れの方針は、入学前の学習成果の把握・評価を明確に示している。
- (3) 入学者選抜の方法（推薦、一般、AO選抜等）は、入学者受け入れの方針に対応している。

[区分 基準Ⅱ-A-4 学習成果の査定(アセスメント)は明確である。]

■ 基準Ⅱ-A-4の自己点検・評価

※ 以下の観点を参照して、自己点検・評価を行い、(a)及び(b)を記述してください。

(a) 現状

学習成果については、学科の教育課程を構成する各科目について『講義要項』の冒頭で明示している。この学習成果は、人間性、社会性、専門性の3つの育成される力とそれぞれの達成目標から構成されており、この目標に従って学習成果を査定している。学習成果を、明確にしているため、各科目担当者は、達成目標が实际的で測定可能なものになるよう授業内容の改善を続けている。

2年間で幼稚園教諭免許状及び保育士資格の両方を取得する学生がほとんどであり、時間的な制約があり、難しい面もあるが、必要な知識・技術を身に付けて学習成果に掲げられた達成目標を獲得することは可能である。また、質的な評価として、授業評価アンケート、学生の自己評価を用いる他、スポーツデイや子どもフェスティバル、学園祭（大学と合同）、卒業研究発表会、表現活動研究発表会等の学校行事における学生の成長をも重視している。

今年度は1・2年生ともにすべての科目において、再試験受験者があった。人数は科目によって差はあるが、2年生は就職、1年生は実習を行うにあたり、それぞれに必要なと思われる知識・技術を身につけてほしいという考え方から、基準を達成できない場合には再試験を受験することになることもやむを得ないと考えられる。学生からは、再試験受験にあたって、さらにしっかりと勉強したことにより、授業内容への理解が深まったという声もでてきており、学生の力量を伸ばすためには、適切な評価を行い、しっかりと学ぶ機会をつくり、学習効果を高めていくことが求められる。

以下に、「本学で取得可能な国家資格と指定科目について」を示す。

「本学で取得可能な国家資格と指定科目について」

資格名称	法令等
保育士	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童福祉法（昭和 22 年法律第 164 号） ・ 児童福祉法施行令（昭和 23 年政令第 74 号） ・ 児童福祉法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 11 号）
幼稚園教諭二種 免許状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育職員免許法（昭和 24 年法律第 147 号） ・ 教育職員免許法施行規則（昭和 29 年文部省令第 26 号）

卒業生の多くは資格を活かして専門職として就職し、卒業後には、実践的知識や技能・技術を発揮して、専門性の高い幼稚園教諭あるいは保育士として活躍している。

(b) 課題

人間性や社会性は、各科目での一定期間内の獲得や測定が困難であり、学科の教育活動全体を通して取り組まなければいけない課題である。学校行事のほか、学友会、クラブ活動等を重視していくことが必要である。

すべての授業において、欠席状況の確認を行い、学習への取り組み姿勢についても教員間で、情報を共有する中で、学習効果が高まるような細やかな働きかけを行っていくことが課題である。また、『講義要項』（シラバス）に掲載している学生の自己評価リストの活用もすすめていきたい。

※ [当該区分に係る自己点検・評価のための観点]

- (1) 学科・専攻課程の教育課程の学習成果に具体性がある。
- (2) 学科・専攻課程の教育課程の学習成果は達成可能である。
- (3) 学科・専攻課程の教育課程の学習成果は一定期間内で獲得可能である。
- (4) 学科・専攻課程の教育課程の学習成果に実際的な価値がある。
- (5) 学科・専攻課程の教育課程の学習成果は測定可能である。

[区分 基準Ⅱ-A-5 学生の卒業後評価への取り組みを行っている。]

■ 基準Ⅱ-A-5 の自己点検・評価

※ 以下の観点を参照して、自己点検・評価を行い、(a) 及び (b) を記述してください。

(a) 現状

卒業生の就職先の評価については、就職部の求人や採用の際の教職員の訪問、および実習訪問の際に幼稚園、保育所、施設関係者からの聞き取るようにしている。また、実習先との懇談会開催の折にも、実習に関する内容に加えて、卒業生の現況についてアンケートに記入していただく機会を設けている。

聴取した結果は、実習事前事後指導に活かされ、さらに教育課程にも反映させるようにしている。

なお、平成28年度に、実習部で行なった実習先の幼稚園（こども園含む）、保育所（こども園含む）、施設との各懇談会で、園長・施設長から聴き取った卒業生の評価についてアンケートの結果の分析については、以下に示す。

平成28年5月20日に、幼稚園・こども園の園長・施設長との懇談会を実施した。23園の園長先生・施設長と懇談し、この際に、卒業生の評価に関することなどのアンケートを行なって、懇談会終了後にアンケートの回収を行なった。

アンケートの質問は、「卒業生の勤続年数別の人数」、「本学で学生に教えて欲しい内容」、「最近の卒業生の様子」、「本学への要望」であった。

主な回答結果を以下に示す。（アンケートの内容を集約したもの）

1、卒業生の勤続年数別の人数

1年未満	16名
1～2年	19名
3年以上	49名

2、本学で教えてほしい内容

- ・課題のある子ども（発達障害、外国人等）に対する具体的な方策を教えたり、経験させたりしていただくとありがたい。
- ・コミュニケーション（子ども、保護者）
- ・遊び心
- ・対保護者へのマナー、話し方
- ・文章力向上
- ・感覚統合の道筋について
- ・わらべうた、絵本
- ・家庭で行う家事経験が少なく、お手伝い遊びなどでどんな仕事をさせればいいのかイメージがわからない。
- ・誠実、明朗、元気
- ・人間としての一般教養。豊かな人間性、専門は後からついてくるので、一般的な人間としての常識を身につけてもらいたい。それに尽きます。
- ・教諭としての資質、言葉遣い、社会人マナー等

3、最近の卒業生の様子

- ・1年目 年少組 副担任 ⇒2年目 年少組 正担任 ⇒3年目 年中組 1人担任のパターンが多く、年々ハードルが上がりますが、前向きによくがんばっています。
- ・これまで通り、素晴らしい。
- ・真面目にやってくれています。
- ・コミュニケーション力が不足している。
- ・浜短の卒業生は現在最高に良いです。
- ・両極化しているように感じます。前向きで積極的な卒業生もいれば、他人まか

せで無気力な卒業生もいます。大学以前の家庭教育の影響でしょうか。

- ・真面目な卒業生がほとんどです。即戦力としてよく働いてくれます。
- ・とても良いです。
- ・真面目に取り組む姿勢は見られるが、長く勤めようとする職員が少ない。
乳児を担当したいと保育所へ行きたがる職員も多い。
- ・仕事に対して大変熱心です。保護者とも積極的に関わるので、子どもだけでなく、子どもの環境である家庭の様子もよくわかります。

4、本学への要望

- ・最近の風潮でやむをえない部分もありますが「自分で考え、実行に移す力」を育てる場面を増やしていただくとありがたいです。
- ・企画力、運営力のある学生を望みます。
- ・免許更新講座を浜私幼の職員をぜひ受けてほしい。
- ・幼稚園への就職希望の学生を増やして下さい。
- ・幼稚園に学生を送ってください。

これらのアンケートの結果を踏まえて、「教育実習」の授業の事前・事後指導に取り入れて学生に指導したり、卒後支援の内容を充実させたりすることに活用している。今後もアンケートを取りながら、よりよい教育課程としていきたい。

平成28年6月10日には、社会福祉施設等の施設長との懇談会を実施した。8施設の施設長と懇談し、この際に、卒業生の評価に関することなどのアンケートを行なって、懇談会終了後にアンケートの回収を行なった。

アンケートの質問は、「卒業生の勤続年数別の人数」、「本学で学生に教えて欲しい内容」、「最近の卒業生の様子」、「本学への要望」であった。

主な回答結果を以下に示す。(アンケートの内容を集約したもの)

1. 卒業生の勤続年数別の在籍人数

- 1～3年 13名
- 4～5年 2名
- 6年以上 1名

2. 本学で学生に教えてほしいという要望

- ・施設の役割、社会的養護について
- ・障がい（発達障がいや愛着障がいなど）と定型発達
- ・自分がどうして保育士を目指したのかという動機を再認識できる場があるといいのではないかと
- ・実習日誌の書き方が、人によってかなり短いことがあったので、せっかくの実習なので、もう少し自分の伝えたいことを書いてほしい。
- ・縫物、掃除など母親が普段の生活の中で行うようなことを見直してもらいたい。

- ・困ったこと、わからないことがあった時は、自分で判断しないで誰かに聞いて解決できるとよいと思う。
- ・記録を口語文で書く人がいる。事実を簡潔にまとめる、記録をつける能力をつけてほしい。相手に伝わる文書の書き方。
- ・障がいに関する学習、特性を事前に学んできてほしい。
- ・ボランティア、見学など実際に足を運んでもらう機会の提供をお願いしたい。
- ・障がいというくくりではなく、人と関わる楽しさ、学ぶ姿勢を沢山教えてほしい。
- ・対象の方（利用者様）を敬う声かけや言葉づかいなど丁寧な対応の仕方。

3. 最近の卒業生の様子

- ・真面目に一生懸命に取り組んでいます。
- ・3年目となるといろいろと感ずるところがあるようで、個人的に話を聞くなどして対応している。
- ・組み立て作業の生産表を見ながら、一日一日利用者へ丁寧にやることを教えています。
また、作業以外にもレクリエーションを考えるなど頑張っています。
- ・1名、産休で10月から休職する。
- ・乳児院に入りたくて就職してくれた方たちなので、とても一生懸命がんばっている。
(仕事上の悩みは抱えていると思うが)成長を楽しみにしている。
- ・悩みながらも意欲的に仕事に取り組んでくれている。
仕事を楽しむという姿勢に感心させられる。素直で笑顔が素晴らしい。
利用者さんとの間の取り方が上手。持って生まれた資質なのだと思う。
- ・12日間の短い実習なので、わからないことは積極的に質問してほしい。
(質問が少ないように感じる)
- ・これまでと生活も変わり、大変なことも多いと思うが、いつも笑顔で頑張ってくれている。
- ・皆、個々に目標をもって頑張ってくれている。特に3年目、5年目の2人は生活支援員業務の中心的存在になってきており、多くの期待がもたれている。
- ・毎年、沢山の卒業生が保育、障がい、高齢、多岐に渡る分野で活躍している。
実習生、卒業生、浜短の学生さんは明るく前向きだという印象をもっている。

4. 養成校への要望

- ・卒業後の再教育の機会
- ・卒業生が学生に体験談を話す機会をもらえたらいいと思う。
- ・研究等で協力できる分野があればうれしい。
- ・障がい関係に興味がある学生がいたら、見学は、いつでも大丈夫なのでお願いしたい。
- ・就職希望を持っている方を優先に、実習を入れてほしい。

- ・漢字がきちんと書けるようにご指導下さい。

近年は、人数はそれほど多いわけではないが、社会福祉施設に就職する卒業生もみられる。アンケートの結果を踏まえて、よりよい人材を養成するために、実習やその他の授業でも様々な改善を行なっている。その中で、社会福祉施設等で行う施設実習は、『保育実習Ⅰ（施設実習）』として実施しており、保育士資格の取得のための必須要件であることから、本学の学生のほとんどが実習を行なっている。そのため、上記のアンケートでの要望等は、『保育実習指導Ⅰ』、『保育実習指導Ⅲ』の授業の中で、学生への指導内容に含むなどの改善を毎年、行なっている。さらに、きちんと文章などを書ける学生を求めるという要望から、基本教育科目の中の『日本語表現』は、選択科目ながらほぼ全員の学生に履修するように指導している。この『日本語表現』の授業の中で、語彙を増やす、敬語に強くなるなどの授業内容を取り入れて、学生の日本語の運用能力・表現能力の向上を目指している。

さらに、平成28年7月7日に、保育所・こども園の園長との懇談会を実施した。32園の園長先生・施設長と懇談し、この懇談会の時に、卒業生の評価に関することなどのアンケートを行い、懇談会終了後にアンケートの回収を行なった。

アンケートの質問は、「卒業生の勤続年数別の人数」、「本学で学生に教えて欲しい内容」、「最近の卒業生の様子」、「本学への要望」であった。

主な回答結果を以下に示す。（アンケートの内容を集約したもの）

1. 勤続年数別 在籍卒業生

1～3年	67名
4～5年	39名
6年～	102名

2. 本学で学生に教えてほしいという要望（内容を6つに区分して整理）

【社会人としての基本や心構え】

- ・社会人としての心得、基本的なマナー。
- ・基本がしっかり身につけていけば、応用はできる。自主的に学ぶ力がほしい。
- ・保護者、外部の方、職員間における挨拶、言葉遣い、電話対応を具体的に学習してきてほしい。
- ・挨拶、体調管理、心配り（あったかさ、けじめ等）。
- ・笑顔で素直な気持ち。
- ・何事にもこつこつ進む、または積む精神力、協調性。
- ・忍耐力と努力する大切さを学生生活の中で伝えてほしい。
- ・健康が大切であるということ。
- ・積極的に取り組む気持ち。
- ・「緊張するな」とは言えませんが、もう少しリラックスして実習をするようにとご指導願いたい。

【報・連・相 コミュニケーション力】

- ・話をよく聞くこと、指示がわからなかった時は聞くこと。
- ・実習生たりとも報告はきちんとすること。
- ・疑問、不明なことは遠慮せずに保育士に聞くように指導願いたい。

【指導案、書類の提出】

- ・指導案の提出日を守ること。1回でクリアーできる計画ではないため、早めに提出してほしい。
- ・指導計画等、書類に関しての指導等。
- ・記録の書き方を丁寧に教えてほしい。
- ・反省、経過記録の書き方の指導。
- ・期限内の書類の提出（厳守）。

【保護者対応を見据えたもの】

- ・今、保育士は保護者支援も大きな役割となっている。社会の中での役割、責任について考えてきてほしい。

【ピアノ】

- ・もう少しピアノを重点的に指導してほしい。
- ・ピアノに苦手意識を持たせないでほしい。下手でもいいから、子どもと一緒に歌えるように。上手に弾けることは望ましいけれど、上手でないと逃げる子が多い。技術ではなく、楽しむことを学んでほしい。

【その他】

- ・自然と関わる力、生活力。
- ・植物、野菜等の名前、育て方など食や園内の環境を含め、保育技術以外のことも教えてほしい。
- ・本園ではわらべうたを取り入れている。各園により特色があると思いますが、わらべうたを取り入れるのもいいかと思う。
- ・保育指針をしっかりと理解してほしい。
- ・自分を大切に。学生時代にいろいろな経験をして視野を広げてほしい。
- ・子どもの発達段階について。

3. 最近の卒業生の様子

- ・本学から採用した職員にはずれがない。向上心を持って勉強しながら保育にあたっていて頼もしく今後に期待している。
- ・学長のお話にもあったように、仕事に対して真面目。どの職員も長く勤め続ける姿勢で働いていてくれる。
- ・自分というものをしっかり持っている。わからないことがあれば、積極的にきいてくる。

- ・皆熱心に頑張ってくれている。本園は一斉保育ではなく乳児・幼児ともに室内に、コーナーを設けて子ども達が自分で好きな遊びを選ぶという保育を取り入れているので保育教諭にとって（特に1、2年目の）大変なところもあるかと思うが、子ども達の気持ちを受け入れ日々これでいいのか考えながら仕事に向かっている。
- ・皆笑顔で元気で頑張ってくれている。
- ・昨年新卒だった子達もすっかり慣れ、のびのびと過ごしてくれ子ども達に大変好かれている。
- ・離職者もなく大変有り難い。以前小学校（6年生）への職業講和を頼んだ。その後、無事に成長してくれた。
- ・2年前に開園したが、その時に就職した保育士が今や3年目になり生き生きと保育に励んでいる。「子どもの成長が楽しみ」と言いつつ充実している。
- ・人柄がよく、年数を重ねるほどに愛情がわいてくる。
- ・中堅以上の職員が多くなり、責任をもって保育にあたっている。リーダー的存在になり、クラスをまとめたり保育技術の向上に努めたり意欲的な様子が見られる。
- ・きちんとした目的意識を持って就職し、真面目に取り組んでくれている。ピアノ等の技術面も頑張ってくれている。
- ・1年目の職員は周りの先輩方に素直に教えをいただき、熱心に保育している。4~5年の職員はクラスリーダーにもなり、園の若き力となっている。
- ・積極的に保育を考え、真面目に取り組んでくれている。
- ・悩みながらも、同僚に相談し前向きになってきている。
- ・全体的に真面目な実習態度なので感心している。
- ・自分のできる事とできない事の間で戸惑う姿が見られる時もあるが、それを乗り越えた後は前向きでたくましい保育士として大変頼りになっている。
- ・継続して仕事をしていこうという方が増え、研修も前向きに取り組んでいる。
- ・持っている力を前面に出す、後輩をリードする力がついてくるといいと思う。
- ・それぞれに課題はあるものの、皆真面目で好感が持てる。ただ経験の浅い職員は波がある時がある。
- ・年数に応じて活躍している。
- ・先輩の厳しいアドバイスを素直に受け、頑張ってくれている。
- ・どの職員も真面目に頑張ってくれている。
- ・年頃になり結婚した方もいるが、正職で頑張っている。離職は結婚、または出産での理由が多く、自己都合はない。また子育てが落ち着くと非常勤として戻ってきてくれている。
- ・真面目に仕事はするが、発想や創意工夫等のところは小さい頃からの実体験がないのか乏しい気がする。
- ・言葉で表現することは得意だが、書くことが苦手かと思う。
- ・全体的に大人しい感じを受ける。もう少し積極的に。
- ・ピアノ演奏に苦勞している職員が多い。

- ・子どもと走り回って遊ぶ姿が減っている。
- ・自己判断が多く、コミュニケーション力が不足していると思う。
- ・真面目な学生が多く、経験の不足を感じる。
- ・職員として採用したいが、このところ応募がなく残念に思っている。

4. 養成校に対する要望、その他（内容を3つに区分して整理）

【実習体験を多く】

- ・保育園やこども園を沢山見学というか関わる場所を持てるようにしてもらえると嬉しい。
- ・採用後のミスマッチを学生さんも事前にチェックすることも必要かと思う。新規採用時は、正規採用かと思うので、できる限り長く勤められるようにしてあげたい。
- ・早い時期に就職先が決定した学生については、就職の決定した園で実習をした方が学生のためになると思う。他園に決まっている子の実習を受けるのは少々拍子抜けです。
- ・自主的に保育の現場に足を運び、実際の保育体験を多くして下さるといいと思う。
- ・沢山の学生に実習に来てほしい。学生が実習に来ることで、職員全体が勉強になるし、子ども達も大喜び。保育士になりたい夢を共に支えるため、私たちも学んでいきたいと考えている。いつもありがとうございます。

【実習の際のお願い】

- ・実習中にいろいろな場面でこれは？と思うことがたくさんあることと思うが、なかなか声を発することができない学生が多いように思う。実習ノートに記入するだけではなく、直接聞くということも大切なことだと思うので学生に伝えてもらえたらと思います。
- ・実習オリエンテーションの際にスーツを着用してくるが、授業後の場合は私服でもよいのではないかと感じている。こちらから声をかければいいのかもわからないが。
- ・熱心な保育士を養成していただき、大変感謝している。ありがとうございます。
- ・実習に積極的な学生が多く、保育士の動きを見て臨応変に動ける印象がある。意欲的な学生がますます増えることを期待している。

【こんな保育士を育ててほしい】

- ・自己をアピールすることの大切さ、また受け身でなく積極的にという姿勢の持てる学生を育ててほしい。
- ・保育所はチームとして専門性を高めて仕事をすると。自分の力を発揮し、人と力を合わせて仕事ができる人を育ててほしい。
- ・保育教諭として長く勤務してほしい。教育、保育に生きがいを持てるような人を育ててください。

- ・子どもが大好き、子どもといる時が幸せ、という気持ちを忘れずに就職後も取り組んでほしい。
- ・数が一番の問題とされているが、質を落とさないようによろしく願いします。
- ・保育士不足とされています。自園もそうです。大変だと思いますが、学生の養成をよろしく願いします。

【先生方へ】

- ・心あたかな熱心な教授の方々のご指導により、人間性豊かな生徒さんが育っていることと感じました。ご縁あり、共に乳幼児保育を進める機会を持つことができれば有り難く思います。
- ・体験実習の折に、保育実習の担当の先生との交流ができて嬉しいです。保育は、人間性が第一だと思います。3名の先生方のお人柄で現職員の存在があるのだとしみじみ感じています。

近年は、保育所に就職する卒業生がやや増加している。アンケート結果を踏まえて、今後、保育士として、よりよい人材を養成するために、実習及び基本教育科目、専門教育科目、その他の就職講座などでも様々な改善を行い、学生の資質向上に努めている。その中で、保育所やこども園での保育実習は、『保育実習Ⅰ（保育所実習）』として実施しており、保育士資格の取得のための必須要件であることから、本学のほとんどの学生が実習を行なっている。そのため、上記のアンケートでの要望等は、『保育実習指導Ⅰ』、『保育実習指導Ⅱ』の授業の中で、学生への指導内容に含むなどの改善を毎年、行なっている。

また、就職講座の中で、1年次では基礎学力養成講座、マナー講座、2年次では、マナー講座や作文講座でも指導するなどきめ細かい指導を行なっている。

さらに、きちんと文章などを書ける学生を求めるという要望から、1年次前期の基本教育科目の中の『日本語表現』は選択科目ながら、ほぼ全員の学生に履修するように指導しており、実際にはほとんど全員が履修している。この『日本語表現』の授業の中で、語彙を増やす、敬語に強くなるなどの授業内容を取り入れて、学生の日本語の運用能力・表現能力の向上を目指している。授業の内容は、学生の能力、要望、幼稚園・保育所・こども園等の園長先生・施設長先生等の要望・意見なども反映させて改善している。

そして、1年次前期に開講された『日本語表現』の授業を履修した上で、1年次後期に開講される『日本語演習』の履修をするように学生に対して指導している。この『日本語演習』では、実用文や園だよりの作成など、より実践的な授業を行ない、『日本語表現』で身につけた日本語の基礎知識を生かし、実用文の作成を行なって、将来の生活に資することを目標としている。

ここで学んだことは、レポートの作成や1年次及び2年次に行なわれる実習の際に書くことになる実習簿などの作成にも活かされている。

さらに、実習部で行っている実習前の幼稚園、保育所、施設との各懇談会で卒業生の評

価についてアンケートを行っている。このアンケートの分析結果を元に、教育課程の改善を行なっている。

具体的な教育課程の改善では、1年次前期に開講される『日本語表現』、1年次後期の開講の『日本語演習』の授業内容に各要望・意見などを反映させていることである。また、『保育実習指導Ⅰ』、『保育実習指導Ⅱ』、『保育実習指導Ⅲ』、『教育実習』の事前・事後指導などにおいても、各要望・意見などを反映させている。毎年、聴取した内容を以上に挙げた授業の中に取り入れて、教育課程の改善を行なっている。

なお、平成28年度末には、平成28年3月及び平成27年3月に卒業した卒業生270名程度に対して、郵送によるアンケートを実施した。

卒業生へのアンケートの内容は、以下の通りである。また、卒業生53名から郵送による回答があった。回収率はおよそ20%程度である。

<卒業生へのアンケートの質問項目>

Q1 現在働いていますか？ 1. はい 2. いいえ

Q2 勤務先 1 幼稚園 2 保育園 3 こども園
4 施設 5 その他

Q3 社会で仕事をする上で、本学の教育やサービス、自身が行ったことの中で何が今役に立っていますか？ 3つ程度○をつけてください。

1. 授業 2. 実習 3. ゼミナール 4. 自主実習
5. 教員とのつながり 6. サークル活動
7. その他 ()

Q4 短大で授業は充実していましたか。

- 1 大変充実していた 2 充実していた 3 普通
4 余り充実していなかった

Q5 こういう科目等があったら良かったと、今思うものがありますか？

<卒業生へのアンケートの集計結果（主なもの）>

Q1. 現在働いているか？

- はい 52名
- いいえ 1名

Q2 勤務先

- 幼稚園 21名
- 保育園 18名
- こども園 9名
- 施設 3名
- その他 2名

Q3 社会で仕事をする上で、本学の教育やサービス、自身が行ったことの中で今役に立っていること。（複数回答。3つ程度）

- 授業 21名
- 実習 49名
- ゼミナール 20名
- 自主学習 9名
- 教員とのつながり 12名
- サークル活動 0名
- その他 4名（ピアノ、行事、友達）

Q4 短大の授業は充実していたか？

- 大変充実していた 7名
- 充実していた 30名
- 普通 14名
- あまり充実していなかった 2名

Q5 こういう科目があったらよかったと今思うものがあるか？

（内容を5つに区分して整理）

【指導案等の書類の書き方】

- 連絡帳の書き方
- 要録について。
- 指導案をもっと練習した方がよいと思う。楽器の持ち方とか。
- 書類関係の書き方
- 連絡帳の書き方。
- 保護者対応。例えば保護者からの相談などに対する対応の仕方や連絡ノートの書き方。

【制作】

- 家庭科（裁縫。衣装作りがあるため）
- 実技的なものや就職してからも使える小道具（パネルシアター、指人形、フェルトで作った玩具など）を作っていく授業があったらよかった。就職すると日々の仕事に追われ、自分の保育の引き出しを勉強する時間がなかなかとれない。
- 教材を作る授業がもっとあったらよかった。⇒特にエプロンシアター等本を見ただけでは難しいところもあるので。学生時代にいくつか作っておけば、働き始めてすぐに保育に使えるよ。
- グループでの保育教材作りはあったが、個人での教材作りが少なかったので、短大の間にもっと保育教材作りができたならよかった。（エプロンシアター、手袋シアター、スケッチブックシアター）
- 壁面を制作することが多くなったので、壁面制作ができる授業があったらいい。
- 壁面制作のアイデア、実践例、行事の指導案のアイデア、書き方等。
⇒より実践的な内容があると働き始めてから役に立つと思う。
- 乳児の制作授業。

【実践】

- 劇遊び(台本や指導の仕方等)
- 子ども向けの絵を描く授業(キャラクターとか)⇒「子ども達にアンパンマン描いて」「ドキンちゃん描いて」と言われるので。
- 劇遊びについて学べる機会が増えるとよいと思う。
- 何歳ごとに分けた室内遊びや言葉かけの仕方を学生が実践する授業。
- わらべうた
- 実践で使える幼児体育指導法
- 健康スポーツの中で、子ども向けの体操などがあればいいなと思った。

【マナー・コミュニケーション】

- 現場で働く先生方の話を聞く機会。
- 実際に現場で働いている卒業生の声を聞いてみたかった。
- 保護者対応。気になる子への関わり。
- 保護者との接し方
- 今、勤務先に研修に来ている学生の言葉の使い方、自主実習や行事に参加する時の服装、来年度から社会人になるといった自覚がみられないため。目上の先生に対する敬語など、マナー研修をもっと重視した方がよいのではと感じる。
- 簿記、園での用品注文など計算が必要な機会が多いので。
- ピアノの授業がもっと沢山あるとよかった。

【その他】

○短大で学んだこと、経験したことが今本当に役に立っている。浜短に行ってよかった。

このアンケートの中で、書類などの書き方を学びたいという要望が多々見られた。このため、上述したが、1年次前期に基本教育科目の中で開講される『日本語表現』をほぼ全員が履修するように指導を継続したり、1年次後期に開講される『日本語演習』もほとんどの学生が履修するように指導を強化したりしていきたい。

また、『保育実習指導Ⅰ』、『保育実習指導Ⅱ』、『保育実習指導Ⅲ』、『教育実習』などの実習の事前・事後指導のみならず、その他の専門教育科目の演習科目等でも内容を充実、向上させていきたい。

アンケートはなるべく取ることとし、そのアンケート結果を踏まえてPDCAサイクルによる改善を進めていくように努めたい。

(b) 課題

就職先で求められる保育者としての力量について、現場の声をしっかりと受け止めた上で、ピアノの技術などは、養成校としての立場を保持し、教育課程の編成に反映させることである。

※ [当該区分に係る自己点検・評価のための観点]

- (1) 卒業生の進路先からの評価を聴取している。
- (2) 聴取した結果を学習成果の点検に活用している。

■ テーマ 基準Ⅱ-A 教育課程の改善計画

※ ここには、各区分の課題についての改善計画を記述してください。

※ 改善計画の後に、テーマに関係する提出資料・備付資料の番号及び資料名を提出資料・備付資料ごとに記載してください。

ディプロマシーについて、建学の精神との一貫性が分かるように改めたことから、シラバスのフォーマットも改善していくことである。

また、授業評価アンケートの結果をふまえた授業改善の実践報告を FD で共有していかなければならない。

さらに、実習部で行っている実習前の幼稚園、保育所、施設との各懇談会で卒業生の評価についてアンケートを行っているので、分析の結果を教育課程に、今後、今まで以上にどのように反映していくかの議論をすすめることである。

提出資料

6. 浜松学院大学短期大学部「学則」
2. 平成 28 年度『講義要項』

備付資料

17. 事前教育資料
25. 非常勤講師一覧
10. 授業評価アンケート
11. 卒業生の評価に関するアンケート
13. 卒業生への評価アンケート

指定以外の備付資料

56. 実習関係資料
46. 平成 29 年度『学生便覧』
48. 2018『大学案内』
54. 講師会資料
49. 2018『入試要項』
58. 就職講座資料

[テーマ 基準Ⅱ-B 学生支援]

[区分 基準Ⅱ-B-1 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて教育資源を有効に活用している。]

■ 基準Ⅱ-B-1 の自己点検・評価

※ 以下の観点を参照して、自己点検・評価を行い、(a) 及び (b) を記述してください。

(a) 現状

教員は、本学の学位授与の方針、学則及び履修に関する規程に対応した成績評価基準により、学生の学習の成果について評価を行っている。また、学生による授業評価アンケートを行い、その結果を踏まえ、各教員は、次年度の授業において改善することが望ましい事項についてまとめ提出している。なお、授業評価アンケートの結果概要については、後述する。

授業内容については、同じ場合は、授業担当者間で、授業内容を確認するなど、調整を行っている。また、関連する授業科目の担当者間では、授業内容を検討し、より充実した授業内容となるよう、調整を行っている。

さらに、学生への履修指導については、教務の担当教員を中心に、各ゼミナール担当教員も含めて、学生への適切な指導・支援を行うようにしている。個々の学生に応じたきめ細やかな指導を行うことで、2年次への進級、また卒業に向けて、学生がそれぞれの段階での学習成果の獲得が可能となるように努めている。

教務グループでは、学生の履修状況について把握しており、授業で欠席が連続2回または合計3回以上となった学生には、授業担当教員から教務グループに連絡が入り、教務担当教職員とゼミナール担当教員によって学生への適切な指導・支援を行うようにしている。又、教育実習、保育実習では必要科目の修得や授業出席回数などの履修条件について把握している。

図書館職員は、入学時の利用ガイダンス、進級時の図書検索講座、学生及び教員からの購入希望図書の受付、ライブラリーメイトによる催し事やニュースの発行への援助、テーマによる図書展示、学生や教員へのリファレンスサービスなどを通して学科の学習成果の獲得と学生の学習向上のために貢献している。

教員は研究室で1台以上のパソコンやプリンタを使用して授業系のネットワークに接続して利用している。職員はデスクで1台のパソコンを使用して事務系のネットワークに接続しており、複合機や専用機のプリンタをネットワークを介して利用している。ほぼ全ての一般教室と一部の特別教室には据え置きのプロジェクターとスクリーンが設置され、DVDプレーヤーやパソコンの接続できる書画カメラが置かれ、パソコンを用いた授業や視聴覚教材を使った授業が可能になっている。

以下に、前述した「授業評価アンケートについて」の結果概要を示す。

授業アンケートは、本学学生1年生、2年生全員が対象であり、履修した授業について行っている。

授業アンケートの内容は、

- Q1. この授業を受けるとき、積極的に学ぼうという態度で臨むことができましたか？
- Q2. 授業時間以外で、この授業に関する知識や技術の習得に努めましたか？
- Q3. この授業のテーマや目的は理解できましたか？
- Q4. この授業の進度は、あなたにとって適切でしたか？
- Q5. この授業の内容を理解することができましたか？
- Q6. この授業で、教員の指導は丁寧でわかりやすかったですか？
- Q7. この授業で、専門的な知識や技能を身につけることができましたか？

Q8 (1) この授業を受けて、どのような学習成果が身につきましたか？【複数回答可】

Q8 (2) 前問の身についた学習成果について、具体的に記述してください。

Q9. 総合的に判断して、この授業はあなたにとって満足できるものでしたか？

自由記述

であり、Q8 (1)、Q8 (2) と自由記述以外は、5段階評価で行っている。

なお、授業評価アンケートの平均値などの数値は、1年生及び2年生全体の平均の数値である。

「Q1. この授業を受けるとき、積極的に学ぼうという態度で臨むことができましたか？」では、平均値が4.21であり、積極的に学ぼうという態度で臨んだ学生が多い。ここから、学生の授業への取り組みへの熱意の高さがうかがえる。

「Q2. 授業時間以外で、この授業に関する知識や技術の習得に努めましたか？」では、平均値3.55と平均値3よりもやや高めの数値ではあるが、授業時間以外での取り組みには、やや消極的な面があると考えている。

「Q3. この授業のテーマや目的は理解できましたか？」では、平均値4.22と高い数値であり、各授業のテーマや目的の理解度は高い。シラバスへの明記や授業の中での教員の伝達がうまくいっているものと考えている。

「Q4. この授業の進度は、あなたにとって適切でしたか？」においては、平均値3.13であり、進度が「ちょうどよい」という考えている学生が多く、授業の進度は適切に行われている。

「Q5. この授業の内容を理解することができましたか？」は、授業の内容の理解を示すものであり、平均が4.18と高い水準にある。各教員で授業の工夫・改善を重ねており、その成果が出ていると考えている。学生の授業の理解度が高いことは、養成校としても重要なことであると考えている。

「Q6. この授業で、教員の指導は丁寧でわかりやすかったですか？」の平均は4.2であり、教員の指導は適切であると考えられる。今後も、授業の改善・向上を継続していく必要がある。

「Q7. この授業で、専門的な知識や技能を身につけることができましたか？」の平均は4.19で、専門的な知識や技能を身につけることができた学生が多いと感じている。今後も学生に必要な資質を身につけさせていきたい。

「Q9. 総合的に判断して、この授業はあなたにとって満足できるものでしたか？」の総合的な満足度の問いでは平均4.26とすべての設問の中で最も数値が高かった。学生の授業の満足度は高いと言え、今後も継続してよりよい授業を行っていけるように努めなければならない。

「Q8 (1) この授業を受けて、どのような学習成果が身につきましたか？【複数回答可】」の学習成果については、平均値に1年生と2年生で若干の相違が見られるが、「1. 保育への姿勢・責任感・誠意」が43.9%、「2. 保育者としての生活習慣・他への配慮・協力」が34.8%、「3. 保育の技術・力量」は47%と保育者、保育に関する学習成果の数値が高く、幼稚園教諭・保育士の養成に必要なものを身につけることができていると考えている。また、「5. 新しい考え方・発想」が34.5%と新しいことが発見できるなど学習前より学習後の方が新しい考え方や発想ができるようになっていけると考えられる。

自由記述欄にも肯定的な意見などが多く、授業に関する満足度は高いと思われる。

(b) 課題

学習成果の評価においては、成績評価を現行の4段階から5段階にすることを検討している。学生の学習成果をより細かく評価することでより適切な評価が可能と思われることと、特別奨学金授与等における学生の選抜や、学習への意欲をさらに高める上でも、評価基準についての早期の検討が必要といえる。

コンピュータ教室にはネットワークに繋がったパソコンが54台あり、学生が自由に使うことができる。しかし、授業のある時間帯や卒業研究等で多くの学生がパソコンを利用したい時は、この台数では不足であり、別の場所に相当数のパソコンを設置することが必要であるが、場所と予算の関係があり検討を要する。

教職員の情報リテラシーには差があるため、互いの活用事例を紹介しあうなどして、各自のスキルアップを図る必要がある。

※ [当該区分に係る自己点検・評価のための観点]

(1) 教員は、学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて責任を果たしている。

- ① 教員は、学位授与の方針に対応した成績評価基準により学習成果を評価している。
- ② 教員は、学習成果の獲得状況を適切に把握している。
- ③ 教員は、学生による授業評価を定期的に受けている。
- ④ 教員は、学生による授業評価の結果を認識している。
- ⑤ 教員は、学生による授業評価の結果を授業改善のために活用している。
- ⑥ 教員は、授業内容について授業担当者間での意思の疎通、協力・調整を図っている。
- ⑦ 教員は、FD活動を通して授業・教育方法の改善を行っている。
- ⑧ 教員は、学科・専攻課程の教育目的・目標の達成状況を把握・評価している。
- ⑨ 教員は、学生に対して履修及び卒業に至る指導ができる。

(2) 事務職員は、学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて責任を果たしている。

- ① 事務職員は、所属部署の職務を通じて学習成果を認識している。
- ② 事務職員は、所属部署の職務を通じて学習成果の獲得に貢献している。
- ③ 事務職員は、所属部署の職務を通じて学科・専攻課程の教育目的・目標の達成状況を把握している。
- ④ 事務職員は、SD活動を通じて学生支援の職務を充実させている。
- ⑤ 事務職員は、所属部署の職務を通じて学生に対して履修及び卒業に至る支援ができる。

- (3) 教職員は、学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて施設設備及び技術的資源を有効に活用している。
- ① 図書館・学習資源センター等の専門事務職員は、学生の学習向上のために支援を行っている。
 - ② 教職員は、学生の図書館・学習資源センター等の利便性を向上させている。
 - ③ 教職員は、学内のコンピュータを授業や学校運営に活用している。
 - ④ 教職員は、学生による学内 LAN 及びコンピュータの利用を促進している。
 - ⑤ 教職員は、教育課程及び学生支援を充実させるために、コンピュータ利用技術の向上を図っている。

[区分 基準Ⅱ-B-2 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的にしている。]

■ 基準Ⅱ-B-2 の自己点検・評価

※ 以下の観点参照して、自己点検・評価を行い、(a) 及び (b) を記述してください。

(a) 現状

学習成果の獲得に向けて、学生便覧、講義要項等によって、学習内容を確認できるようにしている。なお、ホームページにも掲載されており、閲覧できるようになっている。

また、新学期の最初にオリエンテーション・ガイダンスを行い、履修登録や履修の方法などの学生への説明を行っている。とくに、ピアノの演奏技術を獲得する授業については、学生のグレードに合わせてレッスンが受けられるように、個々の力量を確認し、学生にあった指導内容となるよう配慮している。

優秀な学生に対して、さらなる学習意欲の向上をはかるために、2年生への進級時には優秀者特別奨学金制度による奨学金を授与、また卒業時には全国保育士養成協議会会長賞や学長賞などを授与している。又、保育者に必要とされるピアノの演奏技術や歌唱力の優秀な学生には、卒業式や入学式等において校歌の伴奏や合唱を披露する機会を与え、さらに意欲を高められるような機会としている。

また、オフィスアワーを導入しており、専任教員が学生からの学業や就職相談、学生生活なども質問や相談事を受け付ける時間帯を設けていることによって、学生が学習成果を獲得するための一助となっている。

(b) 課題

就職採用試験にむけての学力講座は実施しているが、今後は、基礎学力が不足する学生への学力講座として、1年次に開講することを検討した。

また、学生からの学習上の悩みなどの相談に対しては、教務の担当の教員を中心に個々の教員がその都度対応している現状であるので、今後はその体制作りが求められることが課題である。

なお、優秀な学生に対するさらに高度な内容の学習指導についての対応を、今後も検討していくことも課題であろう。

※ [当該区分に係る自己点検・評価のための観点]

- (1) 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて、学習の動機付けに焦点を合わせた学習の方法や科目の選択のためのガイダンス等を行っている。
- (2) 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて、学生便覧等、学習支援のための印刷物（ウェブサイトを含む）を発行している。
- (3) 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて、基礎学力が不足する学生に対し補習授業等を行っている。
- (4) 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて、学習上の悩みなどの相談にのり、適切な指導助言を行う体制を整備している。
- (5) 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて、通信による教育を行う学科の場合には、添削等による指導の学習支援の体制を整備している。
- (6) 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて、進度の速い学生や優秀学生に対する学習上の配慮や学習支援を行っている。
- (7) 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて、留学生の受け入れ及び留学生の派遣（長期・短期）を行っている。

[区分 基準Ⅱ-B-3 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて学生の生活支援を組織的に行っている。]

■ 基準Ⅱ-B-3の自己点検・評価

※ 以下の観点を参照して、自己点検・評価を行い、(a)及び(b)を記述してください。

(a) 現状

学生の生活支援のための組織として、学生部の教職員を配置するとともに、学生相談室やセクシャル・ハラスメントの防止に関する指針に基づき、委員会を設置し、相談窓口となっている。毎年4月には、心身の健康診断を行い、とくに注意を要する疾患や障害をもつ学生への支援のありかたに関しては、教員間で意見交換をして確認して、学科長が会議を開いて報告している。さらに、学生の相談内容に応じて、カウンセラーへとつなげていくことも含めて、対応を行なっている。個人情報保護に配慮しながらも、教職員の連携により学生へのきめ細やかな支援を行うように努めている。

また、本学内・周辺は禁煙とし、将来、多くの学生が保育者になることを踏まえて、健康指導を行っている。

ゼミナール担当教員においては、学習支援だけではなく、学生生活の状況などもできる限り、その状況を把握するように心がけ、個々の学生にあった支援を行うようにしている。

本学の学校行事（スポーツデイ、子どもフェスティバル、学園祭）、サークル活動や学友会などは、学生が主体的に参画する活動を行えるよう、その活動を支援する担当教員も配置している。

学生生活に関しては、本学学生1・2年生に対して、学生の満足度を調査するために、

「学生生活アンケート」を取っている。平成28年度の学生生活アンケートの結果の概要を以下に示す。

- 平成28年度は、1・2年生133名を対象に抽出調査を行った。質問項目は、
- 設問 1. あなたの性別を選んでください。
 - 設問 2. 開講科目以外で学習したい「教養科目」(または内容)があったらあげて下さい。
 - 設問 3. 開講科目以外で学習したい「専門科目」(または内容)があったらあげて下さい。
 - 設問 4. もっと時間を増やして欲しい「教養科目」があったらあげて下さい。
 - 設問 5. もっと時間を増やして欲しい「専門科目」があったらあげて下さい。
 - 設問 6. 授業の予習・復習をしますか。
 - 設問 7. 1回の「予習」にどのくらいの時間を費やしますか。
 - 設問 8. 1回の「復習」にどのくらいの時間を費やしますか。
 - 設問 9. 各授業でだされる課題・宿題はどうですか。
 - 設問 10. 定期試験の準備や授業の予習・復習(あるいは課題・宿題)はどこでしますか。
 - 設問 11. 定期試験に備えて「講義科目」は「1科目の平均」でどのくらい学習しますか。
 - 設問 12. 定期試験に備えて「演習科目」は「1科目の平均」でどのくらい学習しますか。
 - 設問 13. 大学に自習室があればいいと思いますか。
 - 設問 14. アルバイトはどの位していますか。
 - 設問 15. アルバイトをしている時は、1週間で何日ですか。
 - 設問 16. アルバイトをしている時は、1日に何時間ですか。
 - 設問 17. テレビの1日の視聴時間はどれくらいですか。
 - 設問 18. パソコンの1日の利用時間はどれくらいですか。
 - 設問 19. スマホの1日の利用時間はどれくらいですか。

の全部で19問である。

このアンケートの結果の概要をみると、「設問 2. 開講科目以外で学習したい「教養科目」(または内容)があったらあげて下さい。」及び「設問 3. 開講科目以外で学習したい「専門科目」(または内容)があったらあげて下さい。」の2つの問いにおいて、「教養科目」、「専門科目」ともに、開講科目以外で学習したいものが少なかった。また、「設問 4. もっと時間を増やして欲しい「教養科目」があったらあげて下さい。」及び「設問 5. もっと時間を増やして欲しい「専門科目」があったらあげて下さい。」の2つの設問においても、もっと時間を増やして欲しいという科目も少なかった。このことから、学生が現在、開講されている科目に、ある程度満足していると考えられる。今後は、アンケートで要望のあった授業科目の授業内容を、今よりもさらに充実させていく必要があると考えている。

「設問 6. 授業の予習・復習をしますか。」の設問では、「課題や宿題があればする」という回答率が80%弱であり、授業において、適切な課題や宿題などを出すことが重要と考えられる。本学では、現在、課題やレポート、提出物、小テスト、発表などを行い、準備学習、復習の時間を学生に確保させる努力をしている。

また、「設問 7. 1回の「予習」にどのくらいの時間を費やしますか。」及び「設問 8.

1 回の「復習」にどのくらいの時間を費やしますか。」の2つの問いに関してしてみると、「予習」については、半数以上が予習を行っておらず、30分が30%程度であり、予習を行っている時間は少ない。また、「復習」については、「予習」よりは行う学生が若干多く、また、「復習」に費やす時間も「予習」より多い。知識の定着という観点から「予習」よりも「復習」に力を入れている学生の方が多いと見受けられる。

次に、「設問 9. 各授業でだされる課題・宿題はどうですか。」の設問では、「多くて大変だけど今ぐらいで良い」が60%であり、出される課題は、学生にとってはおおむね適切であると考えている。

「設問 6. 授業の予習・復習をしますか。」及び「設問 9. 各授業でだされる課題・宿題はどうですか。」の設問から、授業の中で担当教員から適宜課題を出して、学生に課すことで、「予習」、「復習」の時間を増やすことができ、学生の知識や技術の獲得につながっていくと考えている。

「設問 10. 定期試験の準備や授業の予習・復習（あるいは課題・宿題）はどこでしますか。」で、「ほとんど自宅」が59%、「大学と自宅 半々ぐらい」が37%となっており、これに関連する設問である「設問 13. 大学に自習室があればいいと思いますか。」において、自習室が「あったほうが良い」が50%となっており、現状では空き教室を開放しているが、自習室がないことから、大学で学習する学生の比率が少ない可能性がある。今後、学生の要望を聴いて、自習室を設置するかどうかを検討する必要があると考えている。

「設問 11. 定期試験に備えて「講義科目」は「1科目の平均」でどのくらい学習しますか。」においては、1～3時間が80%であり、4～5時間以上が17%となっており、1科目に費やす時間がやや少ない傾向にある。また、「設問 12. 定期試験に備えて「演習科目」は「1科目の平均」でどのくらい学習しますか。」の演習科目においても、1～3時間が81%で、4～5以上が15%となっており、講義科目と同様にやや少ない傾向にあると思われる。

「設問 14. アルバイトはどの位していますか。」、「設問 15. アルバイトをしている時は、1週間で何日ですか。」、「設問 16. アルバイトをしている時は、1日に何時間ですか。」の3つの設問についてしてみると、アルバイトを「だいたい1年を通してしている」、「1年を通してする月の方が多い」が72%とアルバイトをしている頻度が高い。また、週に2～3日が全体の58%、2～4日においては49%と約半数にのぼり、1週間のうちの約半分程度の日がちでアルバイトをしていることが分かる。

さらに、「設問 16. アルバイトをしている時は、1日に何時間ですか。」から1日に行う「アルバイトの時間」が5時間という回答率が28%と一番多く、4～6時間で54%であり、1日のアルバイトの時間はやや長いと感じる。最近では、経済的に苦しい学生が増えており、アルバイトを行うのはやむを得ないと考えるが、学業に支障のない範囲内で行うよう指導をしている。

次に、「設問 17. テレビの1日の視聴時間はどれくらいですか。」では、2時間以下が77%であり、テレビの視聴時間は少ない傾向にある。また、「設問 18. パソコンの1日の利用時間はどれくらいですか。」では0時間が86%で、パソコンはほとんど利用していない。それに比較して、「設問 19. スマホの1日の利用時間はどれくらいですか。」では、スマホの1日の利用時間の4時間以上が43%、3時間以上は60%となっており、学生

のスマホの利用時間はかなり多い。「設問 17」及び「設問 18」において、テレビの視聴時間やパソコンの利用時間が少ない状況であったが、これらのテレビを視聴する時間やパソコンを利用する時間がスマホを利用する時間に充てているものと考えられる。

学生のスマホの利用時間は長くなる傾向にあり、授業の課題を作成する際にもスマホから情報収集するケースも多々みられる。

(b) 課題

学生の相談内容の多様化が進んでいる現状をふまえて、教員間、また教務、就職、相談室といった部署との連携をとるようにしているが、個人情報への配慮をしながらも、さらにきめ細やかな対応が必要になるとと思われる。

経済的状况により、在学が危ぶまれる学生も増えており、早めの支援を行うことが求められるので、相談しやすい体制を整えることが課題である。

平成 27 年度には学生食堂の改装を行なったが、さらに、図書館分室や自習室の開設等、学生生活がより充実するような施設の整備が喫緊の課題である。

※ [当該区分に係る自己点検・評価のための観点]

- (1) 学生の生活支援のための教職員の組織（学生指導、厚生補導等）を整備している。
- (2) クラブ活動、学園行事、学友会など、学生が主体的に参画する活動が行われるよう支援体制が整備されている。
- (3) 学生食堂、売店の設置等、学生のキャンパス・アメニティに配慮している。
- (4) 宿舍が必要な学生に支援（学生寮、宿舍のあっせん等）を行っている。
- (5) 通学のための便宜（通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置等）を図っている。
- (6) 奨学金等、学生への経済的支援のための制度を設けている。
- (7) 学生の健康管理、メンタルヘルスケアやカウンセリングの体制を整えている。
- (8) 学生生活に関して学生の意見や要望の聴取に努めている。
- (9) 留学生の学習（日本語教育等）及び生活を支援する体制を整えている。
- (10) 社会人学生の学習を支援する体制を整えている。
- (11) 障がい者の受け入れのための施設を整備するなど、障がい者への支援体制を整えている。
- (12) 長期履修生を受け入れる体制を整えている。
- (13) 学生の社会的活動（地域活動、地域貢献、ボランティア活動等）に対して積極的に評価している。

[区分 基準Ⅱ-B-4 進路支援を行っている。]

■ 基準Ⅱ-B-4の自己点検・評価

※ 以下の観点を参照して、自己点検・評価を行い、(a)及び(b)を記述してください。

(a) 現状

本学では、建学の精神と教育理念に基づいたディプロマポリシーに即して、職業教育を実施している。学生のほぼ全てが保育士または幼稚園教諭を将来の職業として目指していることから、それに即した職業教育を1年次より2年次の卒業間際まで行っている。

具体的には、教員組織の就職・インターンシップ部と事務組織の学生支援グループの就職担当が協力して部会を開催し、学生の就職指導の計画立案や実施状況の確認を行っている。

また、本学の就職指導は次のような特徴がある。教員はゼミ学生を中心に、就職活動についての助言等を行っている。しかし教員の指導格差による学生の就職活動に差異が起らないように、就職活動全般についての個々の学生の相談や助言は、事務の就職担当が中心になって行っている。

以下に平成28年度の1年次および2年次の就職指導のスケジュールを示す。

■平成28年度 就職指導スケジュール 1年生

日時	行事	内容	場所	講師
4月1日(金)	就職ガイダンスⅠ	就職の心構え等	1205 教室	就職部
5月14日(土)	浜松市私立幼稚園協会 就職説明会	浜松市内私立幼稚園の紹介等	アクトシティ展示イベントホール	
5月15日(日)	西部地区私立保育園合同就職説明会	西部地区私立保育所の紹介等 (浜松市・湖西市・磐田市・袋井市等)	アクトシティ展示イベントホール	
5月22日(日)	遠州地区私立幼稚園説明会	各幼稚園の概要説明等 (菊川市・掛川市・袋井市・磐田市・湖西市)	掛川クラントホテル	
7月8日(金)	基礎学力テスト	基礎学力テスト実施	1205 教室	

8月頃	基礎学力養成講座 説明会	基礎学力テスト結果 配付	1205 教室	
8月～9月	基礎学力養成講座	4分野に渡って 合計16コマ	1203 教室	
9月21日(水) 成績発表終了後	美容レッスン		1202 教室	ポーラ
	写真撮影(履歴書+ 実習用)			
	マナー講座	二つ割(2コマ) 就職のてびき持参	1203 教室	SSブ レー ン
9月下旬(予定)	就職ガイダンスⅡ	就職のてびき配付	1205 教室	就職部
10～11月	履歴書・小論文対策 講座	日本語演習クラス	1203 教室	池谷
11月下旬	浜私幼模擬試験	昨年度復元問題 就職問題集の販売	1205 教室	就職部
1月上旬	就職活動体験報告と 基礎学力テスト		1203 教室	内定者 5名
3月3日(金) 成績発表終了後	就職ガイダンスⅢ		1205 教室	就職部

■平成28年度 就職指導スケジュール 2年生

日時	行事	内容	場所	講師
3月31日(木)	就職ガイダンスⅤ	保育士模試説明、申込 書配付 今年度の就職状況につ いて 進路希望調査票配付 就職指導スケジュール 配付	1205 教室	就職部

4月21日(木) 22日(金)	専門職就職模擬試験		1203 教室	就職部
5月13日(金)	マナー講座	二つ割	1205 教室	市川先生
	作文講座		1203 教室	大岩先生
	天竜厚生会説明会		1203 教室	天竜厚生 会総務部
5月14日(土)	浜松市私立幼稚園 協会 就職説明会	浜松市内私立幼稚園の 紹介等	アクトシティ展 示イベントホー ル	
5月15日(日)	西部地区私立保育園 合同就職説明会	西部地区(浜松市・湖西 市・磐田市・袋井市等) 私立保育所の紹介等	アクトシティ展 示イベントホー ル	
5月22日(日)	遠州地区私立幼稚園 説明会	各幼稚園の概要説明等 (菊川市・掛川市・袋 井市・磐田市・湖西市)	掛川グランド ホテル	
5月下旬	面接講座 ロールプレイング	三つ割	ホール	就職部
6月下旬	浜私幼試験 願書配付	応募書類と内容につい ての説明	1203 教室	就職部
7～8月	浜私幼試験等 直前対策	音楽理論	1403 教室	中本
		ピアノ実践	1403 教室	中本
9月23日(金)	就職ガイダンスⅦ	就職内定後について	1205 教室	就職部
8月～	絵本読み聞かせ・ 手遊び対策			
9月～	面接指導(個別)	予約制		
9月～	絵画試験対策(各園)	希望者	1305 教室	

2月3日（金） 成績発表終了後	就職ガイダンスⅧ	社会人としての心得	1205 教室	就職部
--------------------	----------	-----------	---------	-----

この中で特徴的なのは1年次の基礎学力養成講座である。職業教育としての専門科目の学習も重要であるが、それらの科目を理解するベースとなる基礎的な知識を、社会科学・人文科学・自然科学・一般知能の4分野にわたって16コマを8月～9月に集中的に学習する。これによって専門科目の理解がより深まることを期待している。

また、2年次の夏休みに実施する音楽系の理論と実技の講座は、就職試験に直結した内容であり、主に幼稚園への就職を希望する学生が受講している。

(b) 課題

浜松地域の私立保育園および私立幼稚園の採用試験は年々早くなっており、これに対応して職業教育の中の就職活動に関わる指導も前倒しで行う必要がある。2年次のカリキュラムや実習などのスケジュールとの擦り合わせをいかに行うかが課題である。

また、この改善計画として、浜松地域の幼稚園協会や保育園園長会と意見交換を行い、採用試験の時期の配慮をお願いしたい。

※ [当該区分に係る自己点検・評価のための観点]

- (1) 就職支援のための教職員の組織を整備し、活動している。
- (2) 就職支援室等を整備し、学生の就職支援を行っている。
- (3) 就職のための資格取得、就職試験対策等の支援を行っている。
- (4) 学科・専攻ごとに卒業時の就職状況を分析・検討し、その結果を学生の就職支援に活用している。
- (5) 進学、留学に対する支援を行っている。

[区分 基準Ⅱ-B-5 入学者受け入れの方針を受験生に対して明確に示している。]

■ 基準Ⅱ-B-5の自己点検・評価

※ 以下の観点を参照して、自己点検・評価を行い、(a)及び(b)を記述してください。

(a) 現状

『入試要項』は、アドミッションポリシーを掲げており、『大学案内』でも示している。総務・入試グループの入試担当者には、これまでの入試についてのノウハウが蓄積されており、入試部の教員と常時相談しながら適切に対応している。広報や事務についてもこれまでの蓄積をもとに体制を整えている。オープンキャンパスでは入学希望者の個別相談に応じ、入学後の様子が理解できるように対応している。

入学手続者に対しては、ピアノの事前教育を受けさせるなどして、入学後の授業につい

て情報を与え、しっかりした心構えを持てるようにし、入学式の前後から、時間をかけて学習や学生生活のためのオリエンテーションを行っている。また、4月上旬に学友会による新入生歓迎会が行われ、クラブ・サークルの勧誘がある。

(b) 課題

保育者養成校として、アドミッションポリシーに基づいて、保育者を目指して自ら努力できる学生に入学してもらえるような環境作りと入試の方法についてさらに検討を進めて、入試倍率を向上させることが課題である。

※ [当該区分に係る自己点検・評価のための観点]

- (1) 学生募集要項は、入学者受け入れの方針を明確に示している。
- (2) 受験の問い合わせなどに対して適切に対応している。
- (3) 広報又は入試事務の体制を整備している。
- (4) 多様な選抜を公正かつ正確に実施している。
- (5) 入学手続者に対し入学までに授業や学生生活についての情報を提供している。
- (6) 入学者に対し学習、学生生活のためのオリエンテーション等を行っている。

■ テーマ 基準Ⅱ-B 学生支援の改善計画

※ ここには、各区分の課題についての改善計画を記述してください。

※ 改善計画の後に、テーマに関係する提出資料・備付資料の番号及び資料名を提出資料・備付資料ごとに記載してください。

教育資源の有効活用については、成績評価の基準を、4段階から5段階にすることとし、具体的には、「優」の上に「秀」評価を設ける。成績評価を5段階にすることで、より厳格に成績を評価できることに加えて、学生の質的保証の客観的事実を明確にしたい。

なお、GPAを導入し、進級要件や卒業要件、実習への派遣などに活用することも計画している段階である。

学生生活支援については、学友会室の整備、学生の空き時間の居場所の提供などを今後も検討をしていきたい。

提出資料

1. 平成 28 年度『学生便覧』
2. 平成 28 年度『講義要項』
4. 2016『大学案内』
5. 2017『大学案内』
8. 2016『入試要項』
9. 2017『入試要項』

備付資料

- 10. 授業評価アンケート
- 23. FD 研修会資料
- 18. 新入生ガイダンス資料
- 12. 学生生活アンケート
- 11. 卒業生の評価に関するアンケート
- 13. 卒業生への評価アンケート
- 17. 事前教育資料
- 20. 学籍票
- 21. 就職調査票
- 19. 新年度2年生ガイダンス資料

指定以外の備付資料

- 46. 平成 29 年度『学生便覧』
- 54. 講師会資料
- 57. 図書館だより
- 58. 就職講座

■ 基準Ⅱ 教育課程と学生支援の行動計画

※ ここには、各テーマの改善計画を踏まえ、次の PDCA サイクルに反映させるために、改善等のための工程を示した行動計画を記述してください。

成績評価の基準を、5段階にすることについては、教務部会で議論をしてメリット、デメリットを整理し、さらに教務課とも協議をした上で実施の可否について案を決めた。部長会で検討を行い教授会に提出して、決定した。GPA の導入についても同様に、平成 29 年度から実施する。

また、学生支援については、学生生活アンケートでアルバイトを長時間している学生が多いことから予想されるように、学生は経済的な余裕はあまりないと思われる。そこで、平成 30 年度の入試より「経済支援特別入試」を新たに加えることにより、保育者を希望しながら経済的な理由で諦めざるを得なかった生徒が本学に入学できる道を開くことを実施する計画でいる。加えて、保育者になるためには必須ともいえるピアノの技術習得についても、授業内では個人指導で行っているが、授業以外でもスプリングレッスン・サマーレッスン・オータムレッスンを行っている。これをさらに充実させることを検討している。また学生生活アンケートで見られたように、学生はスマートフォンを利用した情報の入手や発信を盛んに行っているため、それを行い易い環境としての Wi-Fi アクセスポイントの増設を検討していく。

◇ 基準Ⅱについての特記事項

- (1) 以上の基準以外に教育課程と学生支援について努力している事項。

【スポーツデイ】

<行事概要>

スポーツデイは、10月下旬から11月上旬に行われるゼミナール対抗のスポーツ大会である。幼児教育科のスポーツ大会ということもあって、玉入れやボール送りなど、幼稚園や保育所でも行われるレクリエーションの色が強い種目も取り入れられており、スポーツの競技会というより運動会の雰囲気に近い。

同じゼミナールの1年生と2年生が交流し、協力して同じ目標を目指して体を動かす機会となっている。このスポーツデイをきっかけに、お揃いのTシャツや応援用の小物を作成するゼミナールも多い。学生たちはレクリエーション色強い種目でも真剣に競い合い、終了後は「ゼミナールのメンバーと以前よりも親しくなれた」という感想が毎年聞かれる。

各ゼミナールから1年生2年生とも数名ずつの「スポーツデイ委員」を選出し、事前準備や当日の進行を行う。学生、教職員の合計人数約300名が参加する大規模な行事ということで、委員以外の学生たちも積極的に会場設営や片付けに協力する。こうした行事づくりの経験は、幼稚園や保育所の運動会がどのような準備を経て開催されているか、当日の滞りない進行や安全管理のためにどのような目配りが必要とされるかを実践的に学ぶ機会になり、学生たちが保育者に求められる能力を獲得する上でも効果を挙げていると思われる。

教育課程におけるゼミナールの演習の一環として、例年金曜日のゼミナール（3限）終了後、概ね4限から5限（14時40分～17時50分）に掛けての3時間ほどで開催される。会場は体育館で、昼休み中にスポーツデイ委員を中心とした学生たちが手作業で会場設営を行う。10種目ほどの総合得点でゼミナールごとの順位が決定され、上位のゼミナールが表彰式で喜び、学生が涙する様子も見られる。当日の様子を収めた写真は、毎年卒業アルバムや大学案内に掲載される。

過去5年間の開催日と結果（優勝ゼミナール）は、次のようになっている。

2012年度	10月19日開催	優勝：永岡ゼミナール
2013年度	10月25日開催	優勝：松澤ゼミナール
2014年度	10月24日開催	優勝：橋爪ゼミナール
2015年度	11月6日開催	優勝：金子ゼミナール
2016年度	11月4日開催	優勝：金子ゼミナール

【表現活動研究発表会】

表現系ゼミナールを選択し、表現活動に強い意欲と関心を持った学生たちが、音楽、演劇、造形、舞踊などの媒体を通じて表現を試みる卒業研究発表の場である。子ども一人ひとりの感性や表現力を育てていくためには、子どもの表現について学ぶばかりではなく、保育者自身の表現の経験をも深めていくことが求められる。そこで、表現系ゼミナールを選択した学生たちは、プロセスを大事にし、仲間と協力して表現活動を進め、保育者としての感性や創造性、表現力を磨く場となっている。

表現活動研究 発表会 実施概要	日時	発表内容	ゼミ員 人数	場所・入場者数
第26回	平成25年1月19日 (土) 13:30~16:00	1. 金子ゼミナール: 創作劇	36名	浜松勤労会館
		2. 中本ゼミナール: ハンドベル演奏	34名	Uホール
		3. 永岡ゼミナール: 創作劇	35名	約480名
第27回	平成26年1月18日 (土) 13:30~16:00	1. 永岡ゼミナール: 創作劇	18名	浜松勤労会館
		2. 中本ゼミナール: ハンドベル演奏	36名	Uホール
		3. 金子ゼミナール: 創作劇	34名	約480名
第28回	平成27年1月17日 (土) 13:30~15:10	1. 中本ゼミナール: ハンドベル演奏	26名	浜松勤労会館 Uホール
		2. 金子ゼミナール: 創作劇	34名	約500名
第29回	平成28年1月16日 (土) 13:30~16:00	1. 永岡ゼミナール: 創作劇	34名	浜松勤労会館
		2. 中本ゼミナール: ハンドベル演奏	26名	Uホール
		3. 金子ゼミナール: 創作劇	32名	約510名

第30回	平成29年1月14日 (土)	1. 永岡ゼミナール：創作劇	34名	浜松勤労会館
	13:30~16:00	2. 中本ゼミナール：ハンドベル演奏	32名	Uホール
		3. 金子ゼミナール：創作劇	33名	約530名

【海外研修】

毎年1回3月に海外研修を実施している。参加者は、学生全員ではなく6月~8月にかけて参加募集を1・2年生に行い、毎年15名~30名の学生が参加している。

内容は通常の観光の他、現地幼稚園にて教育実習を1日ではあるが実施している。アメリカ準州グアムの幼稚園にて、子どもたちと関わり、さらに学生からもプレゼンテーションを行い、現地の子どもたちと教員から、富士山のある県という利点もあり大きな興味関心を引き起こしている。

海外研修時における幼稚園教育実習

実習先	日時	参加人数	引率教員	実習内容
グアム市内 「Mercy Heights Nursery and Kindergarten」	平成25年3月5日 (火)	32名	◎金子 坂田 加藤	・各クラス(8クラス)に分散し、子どもとの関わり ・体育館にて全園児に学生プレゼンテーション
グアム市内 「Mercy Heights Nursery and Kindergarten」	平成26年3月11日(火)	15名	◎加藤 金子	・各クラス(8クラス)に分散し、子どもとの関わり ・体育館にて全園児に学生プレゼンテーション ・同体育館にて全園児のプレゼン見学

台湾での実習企画したが、参加希望者2名のため中止				
グアム市内 「Mercy Heights Nursery and Kindergarten」	平成28年3月8日 (火)	15名	◎坂田金子	・各クラス(8クラス)に分散し、子どもとの関わり ・体育館にて全園児に学生プレゼンテーション
グアム市内 「Mercy Heights Nursery and Kindergarten」	平成29年3月7日 (火)	16名	◎橋爪松澤	・各クラス(8クラス)に分散し、子どもとの関わり ・体育館にて全園児に学生プレゼンテーション

【共同授業】

共同授業とは、静岡県西部地域の7大学【静岡大学、静岡文化芸術大学、常葉大学(浜松キャンパス)、聖隷クリストファー大学、浜松学院大学・短期大学部、静岡理工科大学、静岡産大学】及び3市【浜松市、磐田市、袋井市】が協力して、共同で行う授業である。この授業は、レポート及び出席状況等による成績基準を満たせば単位の取得ができる。

なお、授業は、共同授業の参加大学の教授陣によって、オムニバス形式で行われ、7大学の学生のみでなく、3市の市民も授業を受けることができる。

実績については、平成27年度は、本学では、9名履修登録を行ない、4名が単位を取得している。

また、平成28年度は、本学では、8名が履修登録を行ない、7名が単位を取得した。平成27年度及び28年度の共同授業の内容は、以下の通りである。

◇共同授業の内容について <平成27年度>

- 1 開講期間 平成27年10月3日(土)～平成27年12月5日(土)のうち8土曜日
- 2 講義会場 静岡文化芸術大学 各回の教室はガイダンスにて連絡します。
- 3 講義テーマ 「人間と環境」ー ネット社会と生活ー
- 4 講義日程 9:30～12:40 第1回のみ9:15よりガイダンスを実施

回	期日	講義回数	担当講師
			講義テーマ
		ガイダンス	9:15～9:30 教室は履修許可通知時(8月下旬送付予定)に案内

予備日	12月12日 (土)	臨時休講が発生した場合の予備日
-----	---------------	-----------------

◇共同授業の内容について <平成28年度>

- 1 開講期間 平成28年10月1日(土)～平成28年12月3日(土)のうち8土曜日
- 2 講義会場 静岡大学浜松キャンパス 各回の教室はガイダンスにて連絡します。
- 3 講義テーマ 「人間と環境」－心身の健康－
- 4 講義日程 9:30～12:40 (第1回のみ9:15よりガイダンスを実施)

回	期日	講義回数	担当講師
			講義テーマ
第1回	10月1日 (土)	ガイダンス	9:15～9:30 教室は履修許可通知時(8月下旬送付予定)に案内
		第1講 第2講	常葉大学 健康プロデュース学部 准教授 磯谷 仁 子どもの身体を育てる、あそびの裏ワザ
第2回	10月15日 (土)	特別公開講座 第3講 第4講	静岡産業大学 経営学部 客員教授 小林 寛道 運動と脳と心の働き
		第5講 第6講	静岡大学 工学部 教授 杉浦 敏文 音楽と運動と身体と心
第4回	10月29日 (土)	第7講 第8講	静岡理工科大学 総合情報学部 講師 松永 理恵 音楽を楽しむ心の謎：認知心理学からの示唆
		第9講 第10講	聖隷クリスティーア大学 リハビリテーション学部 教授 有菌 信一 タバコと健康の弊害－健康寿命を延ばそう－
第6回	11月19日 (土)	第11講 第12講	静岡大学 情報学部 教授 西村 雅史 音声情報処理技術とその周辺 －情報検索から心身状態の把握まで

第7回	11月26日 (土)	第13講 第14講	静岡文化芸術大学 文化政策学部 准教授 小杉 大輔 「ストレス社会」における青年および成人のこころ健康
		第15講	浜松学院大学 現代コミュニケーション学部 教授 田嶋 善

【卒後支援事業】

幼児教育科は、28年度卒業生を支援する事業を実施した。短大部幼児教育科の卒業生に幅広く呼びかけて、情報交換会を開催、短大部教職員全員と卒業生が歓談し、卒業後保育の現場で活躍できている姿を確認、あるいは問題を抱えている卒業生には適切な助言等を行い支援した。

当日の詳細は下記の通りである。

日時：平成28年8月5日（土）15時30分～17時00分

場所：学生会館食堂（ビュッフェ形式）

参加費：無料

当日参加卒業生：53名

当日参加在額生：20名

当日参加教職員：20名

【「50周年記念ホームカミングデイ」事業】

本学幼児教育科は、平成29年度で開学50周年を迎えた。記念事業として、上記の卒業生との集いである納涼祭を、ホームカミングデイと名称変更し、盛大な50年間同窓生支援交歓会を企画している。

日時：平成29年8月3日（土）15時30分～15時45分 50周年を祝う式典

15時45分～17時00分 交歓会

場所：学生会館食堂（ビュッフェ形式）

参加費：無料

見込み参加卒業生：100名

予定参加教職員：20名

予定参加御来賓：30名

(2) 特別の事由や事情があり、以上の基準の求めることが実現（達成）できない事項。

特になし

様式8－基準Ⅲ

【基準Ⅲ教育資源と財的資源】

■ 基準Ⅲの自己点検・評価の概要

※ ここには、基準において、改善が必要な事項について、その現状、課題、改善計画及び行動計画の概要を記述してください。

学科の教育課程編成・実施の方針の基本は、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格の付与条件を満たしていることであるが、学科の教育目標（建学の精神及び学科の目的による）に基づいて定めている学習成果を達成するための教育資源として、教員組織、事務組織、校地校舎、施設設備・技術が大体において整備され、これらを支える財政基盤についてもほぼ安定した状況を維持している。

人的資源においては、専任教員は設置基準に定める教員数を充足しており問題はないが、